

古事記入門

古事記を知り、読み解くために

神々の物語であり日本最古の歴史書とされている「古事記」。序文によれば、天武天皇が稗田阿礼に誦習させていた帝紀・旧辞を、天武天皇の死後、元明天皇の命を受けて太安万侶が撰録したもので、その成立は712年（和銅5年）とされています。

今回は、これから初めて古事記を読みたいという方、さらに読み深めてみたいという方へ、調べ方をご紹介します。

◆ キーワード

蔵書検索システムやインターネット等で古事記について調べる際、単に「古事記」で調べると、たくさんの資料がヒットしてしまいます。必要に応じて、以下のようなキーワードを活用しながら検索を行うと、手際よく情報を集めることができます。

日本神話 / 古事記伝 / 具体的な登場人物名（イザナギ、イザナミ、ヤマトタケル、ヤマタノオロチ、因幡の白兔など）

◆ 古事記についての基礎知識

古事記を読んでいく前に、まずは基本的な知識について、知っておきましょう。

① 古事記と日本書紀

古事記と日本書紀は、どちらも奈良時代に成立した歴史書です。両者には共通するエピソードもありますが、異なる部分も数多く存在します。例えば、古事記は英雄に関するエピソードや神々の話が多く、全3巻のうち1巻を神々の話にあてていますが、日本書紀では全30巻のうちわずか2冊だけです。また、古事記が物語調で記されているのに対し、日本書紀は編年体・漢文を用いています。

古事記と日本書紀を併せて「記紀」（きき）と呼ぶこともあります。

② 諸本って？

古事記の成立は712年とされていますが、原本に当たる、一番最初に書かれたものは、現在残っていません。

古事記をはじめとした古典作品の多くは、人々が書き写すことによって、長い年月を語り継がれてきました。そのため、今日に至るまでに、写し間違いなどが発生し、ひとつの作品に数種類の伝本が存在する場合があります。そうした、同一の作品で本文の性質や内容の異なる諸種の写本や刊本を総称して、「諸本」と呼びます。

参考：大辞林 第三版（三省堂）

なら記紀・万葉 (<http://www3.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyo/> 奈良県)

1 古事記の現代語訳を読む

古事記は、成立してから現代にいたるまで、様々な形で語り継がれてきました。原本を書き写した**写本**（変体仮名遣い）や、それに符号（返り点）などを付けた**訓読文**、訓読文を日本語の語順に合わせて、漢字仮名交じりで書き改めた**書下し文（読み下し文）**などがありますが、まずは一番読みやすい、**現代語訳**から読んでいきましょう。

図書館では、共通した分類番号を元に各書棚に本を並べています。

古事記に関係する分類番号に、下記のようなものがあります。

【164.1】 神話. 神話学（日本）

【210.3】 日本史（古代）

【913.2】 小説. 物語（古代前期：奈良時代まで）

このうち【164.1】は古事記の神話側面に、

【210.3】は古事記の歴史書としての側面に、焦点を当てた資料で、
どちらも埼玉県立熊谷図書館に所蔵されています。

古事記の現代語訳を読みたい場合は、まず初めに**【913.2】**の棚を確認してみましょう。

埼玉県立久喜図書館所蔵の古事記の現代語訳に、下記のようなものがあります。



『**口語訳 古事記**』（三浦佑之訳・注釈 文藝春秋 2002）

古老の語りという形で、全編を分かりやすく現代語に訳している。巻末に系図や用語解説、索引などがついているほか、古事記研究者である作者の視点から大量の注釈が加えられている。



『**古事記**』（蓮田善明訳 岩波書店 2013）

昭和9年に刊行された『現代語訳 古事記』の復刊。国文学者にして詩人でもあった著者により、格調高い現代語訳がなされている。

また、古事記のような有名な文学作品は、全集の中にも含まれていることが多いです。

日本文学全集を表す分類記号は【918】になります。



『**日本文学全集 01 古事記**』（池澤夏樹編 河出書房新社 2014）

「日本文学全集」全30巻の第一作目。なるべく元の用語や文体を残すように努め、大量の脚注によって読者の理解を助けている。改行が多用され、読みやすいよう工夫されている。



『**新編日本古典文学全集 1 古事記**』（小学館 1997）

訓読文と書き下し文を中心に置き、ページ上部に注釈、下部に日本語訳という構成になっている。巻末には、校訂付記や索引、地図などのほか、35ページにも及ぶ解説が付けられている。

MEMO

古事記の現代語訳は、下記のサイトでも読むことができます。




『**青空文庫**』（<http://www.aozora.gr.jp/> 青空文庫）


青空文庫は、著作権が消滅した作品を中心に公開している電子図書館です。
古事記のほかにも、様々な作品を読むことができます。

2 古事記の絵本・児童書などを読む

古事記は絵本や児童書の形でも、数多く出版されています。

これらの多くは、序文がついていなかったり、特定のエピソードのみを取り扱っている場合があり、注意が必要ですが、1でご紹介した現代語訳よりも、より手軽に古事記の物語に触れることができます。

 『日本の神話 全6巻』（赤羽末吉絵 舟崎克彦文 トモ企画 1990）※子ども室に所蔵
「あまのいわと」「やまのおろち」などの有名なエピソードを、それぞれ1冊の絵本にまとめている。

 『絵物語古事記』（富安陽子文 偕成社 2017）※子ども室に所蔵
古事記研究者の三浦佑之氏を監修に迎え、神々の物語を記した上巻にあたる部分を山村浩二氏のイラストと富安陽子氏の文章が一体となって描き出している。


MEMO

埼玉県立図書館では、絵本に「E」という分類記号を振っています。詳細検索の画面で、キーワードの欄に「古事記」と入力。分類：参照選択の欄に「E」と入力すると、古事記に関する絵本のみを調べることができます。

MEMO


詳細検索の画面で、キーワードの欄に「古事記」と入力。「児童」の欄にだけチェックを入れると、絵本を含んだ、古事記に関連する児童書全般を検索することができます。

また埼玉県立図書館では、一部、児童向けの学習漫画も所蔵しています。学習漫画は書庫に所蔵していますので、ご利用になりたい場合は職員までお尋ねください。

 『子どものためのまんがで読む古事記 全2巻』（久松文雄著 青林堂 2017）※子ども室に所蔵
天と地のはじまりから、海幸彦と山幸彦のあらいまで、神々の物語を描いた上巻の部分を漫画にしている。子どもでも読みやすいよう、全ての漢字にルビが降ってある。

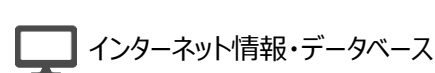
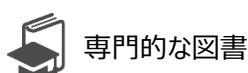
3 耳で読む

元々は口承で伝わっていた物語を、太安万侶が編纂したのが古事記の始まりです。千三百年以上前、人々は耳で古事記の物語を“読んで”いました。

 『古事記 全3巻』（中村吉右衛門朗読 新潮社 2006）※熊谷図書館に所蔵
歌舞伎役者中村吉右衛門による朗読CD。上中下の3巻からなる。

MEMO

詳細検索の画面で、キーワードの欄に「古事記」と入力。「CD」の欄にだけチェックを入れると、古事記に関連するCDのみを検索することができます。



4 古事記の注釈書を読む

注釈書とは、語句の意味や用法の解説、補足的な説明などが載っている本のことです。現代では使われていない言葉や、理解するのが難しい当時の人々の考え方について説明がされているため、書き下し文など、より原文に近い形で読むことができます。



『古事記注釈 全4巻』（西郷信綱著 平凡社 1975～1985）

訓読文、書き下し文、注釈の順で各項が記されている。現代語訳はついていないが、現代では意味のとらえにくい単語一つ一つについて、背景をふまえた読み取り方が説明されている。

また、古事記を読み解いていくうえで、本居宣長の『古事記伝』は外すことができません。本居宣長は江戸時代の国学者です。中世まではもっぱら神道的・神秘的な解釈が行われてきた古事記を、文学的・儒学的アプローチから研究し、1798年（寛政10年）訓読注釈書『古事記伝』を完成させました。



『本居宣長全集 第9巻～第12巻』※熊谷図書館所蔵

（本居宣長〔著〕 大野晋、大久保正編集校訂 筑摩書房 1968～1989）

全20巻+別巻3巻からなる、本居宣長の全集。古事記に関する研究、注釈がまとめられている「古事記伝」は9～12巻に収められている。

5 古事記をもっと深く読むために

最後に、古事記を読んで、もっとこの物語について読み深めたいと思った方のために、古事記に関連する書籍やウェブサイトをご紹介します。

◆事典類

事典・辞書・ハンドブックなど、調べものに使う本を参考図書（Reference book）といい、当館では請求記号の頭にRを付け、一般書とは別の書架に置いてあります。

参考図書は、館内で御利用ください。

【古事記に登場する語について、解説している事典】



『キーワードで引く古事記・日本書紀事典』

（武光誠・菊池克美編 東京堂出版 2006）



『古事記事典』（尾畑喜一郎編 桜楓社 1988）

【古事記に関する本を調べられる事典】



『日本古典文学研究史大事典』（西沢正史・徳田武編 勉誠社 1997）



『上代文学研究事典』（小野寛・桜井満編 おうふう 1996）

◆研究書

数多くの研究者が、古事記について研究を行い、その成果を発表してきました。
ここでは代表的な研究書を掲載します。



『古事記大成 全8巻』（久松潜一〔ほか〕編 平凡社 1957）

古事記に関するあらゆる方面からの研究をまとめあげた、記念碑的な大成。40数篇の論考に加え、本文篇と詳細な索引篇（2冊＋補遺）から成る。



『古事記研究体系 全12巻』（古事記学会編 高科書店 1993）

様々な研究者による論文が、「古事記の成立」「古事記の文芸性」など、各テーマごとに1冊にまとめられている。

もっと読みたいときは……

図書館に置いていない本を調べるツールに、以下のものがあります。
取り寄せができるものも多くありますので、職員までお訊ねください。



《埼玉県内公共図書館等 横断検索システム》

<https://www.lib.pref.saitama.jp/calil/index.html>

埼玉県内の市町村立図書館等の蔵書を一度に検索することができる。



《国立国会図書館サーチ》 <http://iss.ndl.go.jp/>

国立国会図書館が所蔵する全ての資料をはじめ、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が所蔵する資料を検索できる。

◆ウェブサイト



《国立国会図書館デジタルコレクション》（<http://dl.ndl.go.jp/> 国立国会図書館）

国立国会図書館で収集・集積されているさまざまなデジタル化資料を検索・閲覧できるサービス。「インターネット公開」資料はどなたでもご覧いただけるほか、「図書館送信参加館内公開」資料は県立熊谷図書館・県立久喜図書館で閲覧可能。



《国文学研究資料館 電子資料館》

<https://www.nijl.ac.jp/search-find/#database> 国文学研究資料館

国文学研究資料館の所蔵資料の検索のほか、国文学に関する様々なデータベースの利用が可能。「国文学論文目録データベース」「日本古典籍総合目録データベース」など。




《國學院大学 古事記学センター》


<http://kojiki.kokugakuin.ac.jp/> 國學院大学


國學院大學が刊行している『古事記學』が見られるほか、古事記に関する様々なデータベースが利用可能。「神名データベース」「近代古事記研究文献目録」など。

◆雑誌

古事記を専門に扱う雑誌というのはあまり多くありませんが、古事記編纂から千三百年といわれる2012年には、古事記を特集した雑誌が数多く発行されました。

 「古事記 日本の原風景を求めて」（「藝術新潮」2012年6月号 新潮社）

 「古事記 編纂一三〇〇年記念」
（「別冊太陽」2012年1月22日 日本のこころ194 平凡社）

 「特集＝古事記をよむ」（「文学」2012年1,2月号 岩波書店）

埼玉県立図書館では、資料保存のため刊行後2年を過ぎた雑誌は貸出できませんが、館内での閲覧と著作権法の範囲内でのコピーは可能です。過去の雑誌は書庫にあるため、お気軽に職員までお声掛けください。

特集記事を調べるには、データベース「Web OYA-bunko」が便利です。県内では、埼玉県立久喜・熊谷図書館のほか、所沢市立所沢図書館で利用が可能です。

《Web OYA-bunko》（大宅壮一文庫）

大宅壮一文庫の雑誌記事索引検索データベース。明治時代から最新まで539万件の雑誌記事索引を収録している。特集から検索したり、書評のみを検索したりと、かなり詳細な検索ができるのが特長。

また、雑誌には書店に並ぶ一般的な内容のものほかに、学術雑誌や専門誌もあります。それらについては、下記のサイトで検索することが可能です。

《NDL-OPAC》（<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/> 国立国会図書館）

国立国会図書館の蔵書検索システム。詳細検索から「雑誌記事」を選択すると、キーワードや著者から雑誌記事の検索を行うことができる。雑誌記事検索の採録対象は、1948(昭和23)年以降に日本で発行された、学術雑誌や専門誌など。

《CiNii Articles》（<https://ci.nii.ac.jp/> 国立情報学研究所）

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索することができる。また、一部の論文は、大学の機関リポジトリなどへのリンクが貼ってあり本文を読むことが可能。